

馬場ひでゆきの活動日誌

No.63

5月23日、新潟県生涯学習センターホールで4月の県議会臨時会を振り返る「明日につながる決意」議会報告集会が開催され、私も参加しました。

集会では、同会の中山均さんが、再稼働についての知事の判断の位置づけについて重要な指摘をされていたので、紹介します。

●地元同意の位置づけ

政府は平成25年7月、「新規制基準」を策定し、同基準や規制委審査をクリアした原発の再稼働について、第4次エネルギー基本計画で「国も前面に立ち立地自治体等関係者の理解と協力を得る」と明記しました。これが原発再稼働について地元同意が必要とされる根拠規定です。この方針は、現在まで引き継がれ、柏崎刈羽原発についても、柏崎市・刈羽村と新潟県に「理解と協力」（＝実質的同意）を求めています。

政府への回答の方法

A：知事の判断＋県民の信＝回答
B：知事判断＝回答

↑これっておかしいですか？

●政府への回答と知事の判断との関係は？

知事は、「①県民の意見を聞き、県民の意思がどう固まるのか見極め、②リーダーとして判断し結論を出し、その結論について③県民の意思を確認する」と繰り返し発言してきました。ただし、②の「判断」が知事としての単なる一般的な「意思・決断」にとどまるのか（A）、政府の地元同意要請への「回答」まで含まれるのか（B）明らかではありません。

知事の今までの県民への説明からすれば、②知事の判断が③の県民の信を得て政府への回答になるものと考えます（A）。しかし、知事の判断＝政府への回答という解釈もあり得ます（B）（右表参照）。

このBの場合、政府や東電は知事の再稼働同意をもって政府への回答と判断し、再稼働に突き進むかもしれません。後で選挙で「信を問う」結果として再稼働に否定意見が多数を占めても、再稼働の動きを止めることは困難になる可能性があります



「怒りの持続を！」と発言しました。

（以上中山さん）。
 ●世論の高まりを持続させることが必要

これは、地元同意の規定が曖昧で、立場の違いによって如何様にも都合のいい解釈が可能なことから生じるのです。

私は、会場で、知事や政府、東電に勝手な解釈をさせないために、臨時議会の議論で高まった県民の意見表明要求への熱い思いを引き続き維持させていくことが必要だと意見を述べました。私も引き続き頑張ります。

5/24

怒りの報告集会に上越

5月24日は、上越市でも市民プラザで「県民投票で決める会・上越」が臨時県議会の報告集会を開催しました。

私は、「私たちは主権者として意見表明したかった、他方、知事や自民党は、県民をお客さん扱いし、『あなた方の声は聞きたくない』という姿勢だった。この対立がはっきりわかった。怒りを参議院選挙に繋げていこう」とあいさつしました。



怒りを持続させよう

5/23 議会報告集会

柏崎刈羽原発再稼働の是非を県民投票で決める会

5/23

地域医療の充実を

県に要請書を提出



5月23日、地域医療を守る新潟県実行委員会が、地域医療体制の充実を求める県要請をしました。全県から28名が参加（私も参加）、各地域からの切実な要望が出されました。

★**上越地域** 新潟労災病院の閉院は寝耳に水だった。私たちは「守る会」をつくったが、住民からの要望・意見が「守る会」に集中している。県や市が主導して現在ある労災病院の施設を活用して、住民が通いやすい病院を維持してほしい。

★**松代地域** 県は、松代病院を無床の診療所化するというが、無茶だ。年間125回救急対応していて、地域の人たちにとって命を守る大事な病院だ。十日町までのバスの本数は片道3本程度しかない。十日町病院まで本当に通えるのか不安だ。訪問医療も続けるというが、内容がさっぱりわからない。どこに住んでいても対等平等に医療を受ける環境を保障してほしい。

★**県央地域（三条）** 県央は、昨年3月に県央基幹病院が開院した。地域の救急を一手に引き受けることができる体制になったが問題も多い。

先日、県主催の医療連絡会議

を傍聴した。そこで、基幹病院の院長が、救急搬送や直接来院の患者数が当初の予定よりかなり多く、他の病院との連携が必須、開院時、医師が計画人数に足りていないままスタートしたがまだ充足されていない、と訴えていた。現場は使命感で頑張っているが、崩壊寸前。県の責任で医師の確保をお願いしたい。

5/18

大勢のご参加ありがとうございました
県政報告会 in 市民プラザ

5月18日、市民プラザで県政報告会を開催しました。臨時議会での私がした一般質問や賛成討論を取り上げました。40名余の参加で盛会でした。

会場では、県が録画した動画を流しながら、質問討論内容の意図、構成、工夫したことなどを

ていてひとまず安堵。今度は時間かけてゆっくり見たいです。



「佐渡金山を支えた労働者たち」佐渡視察を終えてから帰りまでの時間があったので、佐渡金山の歴史展示がある「相川郷土博物館」に行き、駆け足ですが観てきました。

Break

世界遺産登録では、朝鮮半島出身労働者の強制連行の「負の歴史」をどのように取り扱うかということが課題の一つでした。どんな展示になったのか自分の目で確かめたかったのです。

博物館は、産業遺跡「北沢浮遊選鉱場跡」の脇にあり、木造の質素な建物で歴史を感じさせます。すべての展示をみれば佐渡金山の歴史がわかります。その中の一室に「朝鮮半島出身者を含む鉱山労働者の暮らし」の展示コーナーがありました。戦時中、佐渡金山には朝鮮半島から多くの労働者が「徴用」強制連行され、朝鮮人労働者の総数が1500人余であったと、きちんと解説がされて

朝鮮半島出身者を含む
鉱山労働者の暮らし
The life of mine workers including those
from the Korean Peninsula

出張馬場のお話会

4.5人～10人の少人数でも呼ばれればどこでもお話をさせていただきます。ご希望ございましたら事務所までご連絡ください！すでに数か所で開催しています！

発行責任者：馬場ひでゆき事務所

住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号

ダイヤパレス高田式番館2階

電話 025-5546-7110

ファックス 025-5546-7666

メール kengi-babahideyuki@wind.ocn.ne.jp



「住民の切実な声に耳を傾けてほしい」と発言しました。